

一般財団法人エンジニアリング協会 地下開発利用研究センター

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-18-19
(UD 神谷町ビル 10 階)

TEL 03-5405-7203(直通)/FAX 03-5405-8201
ホームページアドレス ; <https://www.ena.or.jp/GEC/>
E-mail アドレス ; gec-adm@ena.or.jp

第 369-370 号 / 2020.6-7

Index

- 2020 年度 第 1 回研究企画委員会〔書面審議〕報告
- 2021 年度 エンジニアリングに関する調査研究 <提案公募>
- 2020 年度 第 1 回地下利用推進部会幹事会開催報告
- 会員の皆様へのお知らせ
 - 退任挨拶
 - 新任挨拶

■ 2020 年度 第 1 回 研究企画委員会〔書面審議〕報告 ■

2020 年度第 1 回研究企画委員会（委員長：太田誠様 大成建設(株)、副委員長：松本伸様 (株)大林組）は、2020 年 6 月 17 日付書面審議にて開催されました。なお、委員交代により、2020 年度から、副委員長に(株)大林組の松本伸様、委員に(株)ダイヤコンサルタントの有川眞伸様、日本製鉄(株)の田中宏征様にご就任いただきました。

議題と議事内容の概要は、以下のとおりで、審議事項についてはいずれも承認されました。

1. 2019 年度事業報告(案)及び決算報告(案)について(審議)

(1) 2019 年度 事業報告書 (案)

国土交通省から、浮体式洋上風力発電施設の検討業務を初めて受託。地熱関連の業務を 2 件受託。

(2) 2019 年度 決算報告 (案)

受託業務が増えたので、地下センターの収支は 2 年連続でプラス。

2. 2020 年度事業の進捗について (報告)

(1) 2020 年度補助事業

- 1) 三次元データプラットフォームによる地下構造物維持管理の調査研究 (継続)
- 2) 都市域地下空間の立体的利用に関する調査研究 (継続)

(2) 2020 年度受託事業

- 1) 地熱開発関係「IoT-AI 適用による小規模地熱スマート発電&熱供給の研究開発」(NEDO)
- 2) 国土交通省「浮体式洋上風力発電施設の安全評価手法等の確立のための調査研究」(公募中)
- (3) 2020 年度自主事業
 - 1) 研究企画ワーキンググループ
 - 2) 研究会
 - ① 放射性廃棄物研究会
 - ② 地熱発電・熱水活用研究会
 - ③ 計測技術研究会
 - ④ 水素インフラ研究会
 - ⑤ エネルギー関連施設に関する活断層の工学的研究会
 - 3) 地下利用推進部会 (都市域地下空間の立体的利用に関する調査研究)
 - 4) 地下情報化部会
 - 5) 国内見学会、日帰り見学会 (日程未定)
 - 6) 成果発表会 (9 月予定)

3. 2020 年度 JKA 補助事業委託業務公募結果

4. 2021 年度エンジニアリングに関する調査研究 <提案公募>の予定について

■ 2021年度 エンジニアリングに関する調査研究＜提案公募＞ ■

地下センターでは、公共的かつ先導的・共通基盤的な課題等について、幅広く産・学・官の英知を結集して、プラントや機械システム等の新技術に関する調査研究を行い、今日的な社会的諸問題の解決、将来の望ましい社会システムの構築等に資することを目的としております。

2021年度予算要望に当たり、エンジニアリングに関する調査研究テーマの提案を公募しておりますので、お知らせいたします。

提案されたテーマの審査は、地下センターの研究企画委員会において、提案企業匿名で審査を行います。

また、委託先は2021年4月中旬以降に公募によって決定します。決定された委託先は、当センターと共同して調査研究を実施するものとします。

調査研究に係る技術課題・テーマの類型は、公共性が高く先導的で単独企業のみでは取り組み得ない共通基盤的な社会開発システム等に関して、企業の知恵を結集する新しい技術や新しい技術利用展開、システムの調査・研究を行うものです。

テーマは技術課題、特性、調査研究手法、調査研究規模等により以下のように分類しています。

① A型テーマ

〔補助事業での1テーマ事業予算〕

約1,000万円/年、期間：1～2年〕

新技術・新システムなど、主に概念設計・基本設計や基礎実験等を行うものです。

地上・地下の組合せ、あるいは使い分けを含むシステム、コンセプト、エンジニアリングなどの調査研究要素を有するものを対象とします。

地上・地下空間に係るエネルギー合理化、新エネルギーの普及、循環型社会の形成、環境対策、都市の再生、産業の活性化、情報化の進展、バイオ技術の進展、新たな産業の創出発展、雇用の創出などの重要政策に沿うものを対象とします。提案テーマ及び内容が具体的で、調査研究の成果が将来、国内外の普及に結びつき、技

術的・社会的に貢献できるテーマを特に期待しています。

② B型テーマ

〔補助事業での1テーマ事業予算〕

約500万円/年、期間：1～2年〕

国内・海外の具体的な地域特性に着目した社会開発プロジェクト等に関し、エンジニアリング技術を結集して地域開発等の構想策定や事業性検討、フィージビリティスタディ等の調査を行うものとします。

< 望ましい技術課題・テーマ >

- 共通基盤的な技術に係るもの(特定企業や個別業種の枠を超えた横断的な分野など)
- 広く産・学・官及び異業種交流等により検討されるもの(委員会等を設置して多方面の意見を取り入れるなど)
- 調査研究の成果が将来における官民のプロジェクトに結びつく可能性の高いもの

***** 締め切り等 *****

(1) 提出期限：2020年7月31日(金)

(2) 提案書本文は、A4版3～4枚程度にまとめて下さい。また、別途、概念図等を添付して下さい。提案書ファイル(MS-Word形式)をE-mailでご提出いただき、提出された提案書の内容について、当協会事務局にてヒアリングを実施させていただきます。

(3) 問い合わせ・提出先：

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-18-19

一般財団法人エンジニアリング協会

地下開発利用研究センター

技術開発部 斎藤 俊哉 宛

E-mail：saito.toshiya@ena.or.jp

TEL：03-5405-7203

*詳細につきましては、

地下開発利用研究センターホームページ

<https://www.ena.or.jp/gec/>

「※お知らせ」をご参照ください。

■ 2020年度 第1回 地下利用推進部会幹事会 開催報告 ■

*本事業は公益財団法人JKAの競輪の補助を受けて実施しています。

地下センターの主要な活動の柱の一つである地下利用推進部会は、1994年度に発足し、ほぼ2年ごとに更新して活動を実施してきました。今年度は、2ヵ年計画の全体テーマ「都市域地下空間の立体的利用に関する調査研究」の最終年度の活動となります。

幹事会（幹事長：関伸司様 清水建設㈱、副幹事長：稲葉薫様 ㈱竹中工務店）のもとで2019年度は、4つの部会を設けて、幹事会の各委員が、それぞれ部会長・副部会長となり、地下の立体的利用・使用方法（第1部会）、地下空間立体利用時の防災・減災対策（第2部会）、地下の立体的利用に有効な設備（第3部会）、地下の立体的利用に有効な地下空間構築（第4部会）に関する調査研究を行い、報告書をまとめました。

2020年度は、追加の調査研究を実施するとともに、過年度の研究結果を踏まえて、①ニーズの変化に対応した地下空間構築方法の具現化、②大規

模都市開発時の地上と地下空間との融合化、③防災・減災にも配慮した使いやすい地下空間、の観点から、快適で安全な生活を確保するための都市域地下空間を立体的に利用する方策を提言します。

このため引き続き4つの部会活動を基盤としつつ、「地下の立体的利用」という共通の課題に対して、部会の垣根を超えて報告を取りまとめます。



Web会議による幹事会開催風景

2020年度 地下利用推進部会 —都市域地下空間の立体的利用に関する調査研究—		幹事会 幹事長：関伸司（清水建設㈱） 副幹事長：稲葉薫（㈱竹中工務店）
		（敬称略）
部会名	部会長	副部会長
第1部会（7社7名）	小原伸高（大成建設㈱）	大村猛（川崎地質㈱）
第2部会（10社10名）	大森剛志（東電設計㈱）	菅野由人（西松建設㈱）
第3部会（11社11名）	稲葉薫（㈱竹中工務店）	吉川猛（基礎地盤コンサルタンツ㈱）
第4部会（11社11名）	関伸司（清水建設㈱）	田中耕一（鹿島建設㈱）
合計	（28社39名）	

■ 会員の皆様へのお知らせ ■

□退任挨拶

久詰 陽康(地下センター 技術開発部 研究主幹)

この5月末をもちまして、2年余りお世話になりました地下開発利用研究センターとの兼務を解かれ、ENAA 技術部専任となりました。皆様方からのご指導、ご鞭撻の御蔭で無事任期を全うすることができましたこと、心よりお礼申し上げます。

着任以来、地下利用推進部会（第1部会）や計測技術研究会等を担当し、部会・研究会での調査業務や会議の運営に携わらせていただきました。

また、地下センターからの担当としてエンジニアリングシンポジウムの事務局として、2度に渡り講師の方々との折衝やお世話をするという大変

貴重な機会を与えられ、深く感謝しております。

技術部との兼務という形ではありますが、ENAA 着任前の会社でかかわってきた世界とは異なる業界の方々との交流できたことは大変有意義かつ興味深い経験でありました。関係の皆様からしてみれば異業種からの参画ということで、突っ込み方が足りなく思われていたかも知れませんがこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

6月からは技術部専任として ENAA での業務を継続致しますので、今後とも事務所あるいは Web 会議等でお目にかかる機会があろうかと存じます。引続きご指導、ご支援を賜れば幸いです。

□新任挨拶

松原 洋(まつばら ひろし)
(技術開発部 研究主幹)



この度、6月1日付けで、日揮グローバル(株)より地下開発利用研究センターに着任しました松原と申します。

日揮では約40年弱、一貫して「新規分野」と称される業務に従事してきました。入社後5年はシステムエンジニアとして社内プロジェクトマネジメントシステム(PMS)開発を行い、その後はプロジェクトエンジニアとして、大きく3つの産業セクターでの業務に携わりました。

最初の15年は、専門の経営工学を活かして自動車、医薬品、鋳造等々の多岐にわたる製造会社様で改善業務並びにファクトリーオートメーションや生産管理システム等を構築しました。

次の5年は空港での受託手荷物搬送システム(BHS)改修に係るコンサル業務で、多くの時間を羽田空港で大好きな飛行機と過ごしました。

その後の20年弱は、舞台を海外に移して、ま

ずは鉄道建設プロジェクトに臨み、続いて質の高いインフラの海外展開の一役を担うべく海外の空港セクターへの事業投資や空港建設を目指して、アジア・太平洋地域を中心に奔走してまいりました。

地下センターでは、地下利用推進部会（第1部会）と計測技術研究会を中心に久詰様の業務等を引き継いで担当させていただきます。業務内容や取り組むべき技術領域は、私には新鮮で興味深いものですが、すべてが初めてで皆様にはご迷惑をお掛けすることと思います。是非ともご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

新型コロナの影響もあり、世界の産業構造には大きな変革が求められています。日本は自身の高度な潜在的技術力を再認識・集結することで世界に先駆けた変革が可能と考えます。産・学・官の協力連携はその礎を築くものであり、その推進を任とするエンジニアリング協会の一員として微力ながら貢献できれば幸いです。